

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **76**
January
2009



新春のごあいさつ 二〇〇九

国際医療福祉大学理事長

高木邦格

国際医療福祉大学学長

谷修一

国際医療福祉大学副学長

北島政樹

国際医療福祉大学三田病院院長

国際医療福祉大学副学長

岩尾總一郎

国際医療福祉大学大学院院長

開原成允

国際医療福祉大学副大学院院長

金澤一郎



丑年



CONTENTS

2 新春のごあいさつ

6 卒業研究発表会・研究報告会特集

視機能療法学科／放射線・情報科学科／薬学科
大学院博士課程1・2年生研究報告会
第5回学生&企業研究発表会

10 Topics & Columns

言語聴覚学科・臨床実習報告会／医療経営管理学科・3年
実習報告会／視機能療法学科・視覚障害者のための正しい
ガイドヘルプの方法研修会／医療経営管理学科・第12回医
療経営戦略セミナー／第12回学長杯英語スピーチコンテス
ト／動物慰霊祭／看護学科・「助産師教育」のあゆみ―最
後の助産師教育に携わって―／在学生保護者懇談会

12 IUHW Hot News

学位記授与式、入学式のご案内

新春のごあいさつ 平成二十一年

国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長
高木 邦格

新年明けましておめでとうございます。開学より
国際医療福祉大学におきましては、開学より
一四年が過ぎ、まもなく一五年目を迎えるよう
とされています。この三月にはいよいよ、薬学部と
福岡リハビリテーション学部から待望の第一期
生が誕生し、約二七〇名の卒業生が医療・福祉
の現場へと羽ばたいていくこととなります。
四月には、新たなキャンパスとして福岡県の

中心部・天神に、「福岡看護学部」が開設いた
します。学部長には、日本看護学会副理
事長を務める前・西南女学院大学教授の小田
正枝先生が就任予定です。また、大田原キヤ
ンパスにおいては、既存の医療福祉学科と医
療経営管理学科を統合し、「医療福祉・マネジ
メント学科」が開設いたします。これによっ
て本学は、四キャンパス六学部一五学科の大
学として新しい年度をスタートすることにな
りました。
大学院においては、修士課程に薬科学研究
科が開設いたします。四つのコースのうち、が

クティショナー養成分野」を新設いたします。
また、昨年は国際活動が活発な年でした。台
湾の元培科技大学やタイのマヒドン大学との交
流協定による研修生の受け入れや、九月に開催
された北京パラリンピックに全学科から選抜さ
れた学生を派遣し、中国リハビリテーション研
究センターの視察も行いました。北京パラリン
ピックには、私も学生三〇名と同行いたしまし
た。開会式では各国から集まった九万人の観客
の熱気と興奮を肌で感じることができました。
また、競技大会においては障害を乗り越え、懸
念に闘う各国の選手たちの姿とその美しき、そ

してこうした選手たちを陰で支えるボランティア
の方々を間近で見ることができ大変感動いた
しました。中国では急速な経済発展と交通量の
増加により、労働災害・交通事故が急増し、障
害を持つ方々の数は約八千万人に達すると言わ
れております。こうした背景の中、かくも素晴
らしいパラリンピックが開催され成功に終了
したことを嬉しく思うとともに、色々と考えさ
せられるのがありました。本学とパラリンピ
ックとの繋がりについて申し上げますと、本学
の初代大学院院長である故・初山泰弘先生が、
生前三〇年以上障害者スポーツの発展に貢献さ
れ、国際パラリンピック委員会の東アジア地域
代表として活躍されていたこともあり、将来、
東京でオリンピック・パラリンピックが開催さ
れた場合には、ボランティア活動に学生を参加
させるなど、障害者スポーツの発展に少しでも
貢献したいと思っております。
附属・関連施設について振り返りますと、三
田病院では昨年四月、「東京都認定がん診療病
院」としての認定を受けました。北島院長の指



国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格

揮のもと、日本を代表するがん治療の拠点病院
をめざしてさらに機能を強化するため、今年三
月、いよいよ新病院の建設工事に着工します。
診療は継続しながら移転新築工事を行うため、
ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、
二年後の新病院完成をどうぞ楽しみにしてい
てください。

国際医療福祉大学病院では、昨年一〇月、蘇
原泰則教授を新院長としてお迎えしました。蘇
原院長は、日本呼吸器外科学会の前会長を務め
られた、肺がん治療における有数の権威です。
定年退官前にもかかわらず、自治医科大学教授
の職をなげうって就任いただけただけは、我々
にとって大変喜ばしいことでした。

山王病院でも昨年四月、東京大学医学部教授
でおられた堤治院長を、定年退官前に山王病院
の院長としてお迎えいたしました。堤院長は、
日本産科婦人科内視鏡学会やアジアパシフィッ
ク婦人科内視鏡学会の理事長を務め、東宮職御
用掛としても活躍された日本を代表する産婦人
科医です。

六月には、新宿区の百人町に「新宿けやき園」
が開設し、前保健医療学部長の杉原素子先生が
施設長として就任いたしました。全室個室の特
別養護老人ホームで、デイサービスや障害を持
った方の療養施設を併設、三田病院や山王病院
とも連携することで医療面でのバックアップ体
制も充実しています。

また、青山一丁目駅前の旧山王メデイカルプ
ラザ跡地でかねてより進んでおりました建設工
事ですが、いよいよ今年の秋には新しい施設が
完成予定です。人間ドック健診センターを立ち
上げ、一日一〇〇名近い人間ドックをお受けで
きる体制を整備するとともに、女性腫瘍センタ
ーや透視センターを開設する予定です。レスト
ランや専用ラウンジなどアメニティの充実も図

り、洗練された都市型の医療施設をめざしま
すので、どうぞご期待ください。

九州地区においては、高木眼科医院を発祥と
する高邦会が、今年で創立一〇〇周年を迎える
こととなりました。明治四三年の創立以来、一
世紀に渡り医療・福祉・教育の各分野で堅実
実績を上げてこられましたのは、ひとえに関係
各位のご協力の賜物と、改めて感謝申し上
げます。

三年前、父を亡くしたことを機に、高邦会
が百周年目にあたるこの年、アジアに開かれ
たシーサイドももち地区に教育・医療・福祉
が三位一体となった複合施設をつくることを
決意いたしました。その後、このシーサイド
ももちプロジェクトはおかげさまで順調に進
み、昨年四月には、福岡国際医療福祉学院が
百道浜の新キャンパスで開学、新しく看護学
科も仲間入りして学生を迎えることができました。
また、同時に「総合ケアセンターももち
ち」を開設し、たくさんの方々にご利用
いただいております。

そしていよいよ今年、新病院のオープンを見
月に控え、これをもってシーサイドももちプロ
ジェクトが完結いたします。ももち浜の新病院
は、全診療科がそろった市内初の全室個室の総
合病院として、リハビリテーションや予防医学
などに重点を置く予定です。博多湾に面した絶
好のロケーションで、最高の療養環境と良質な
医療サービスをご提供することにより、地域の
皆様に信頼いただける、これまでにない病院を
めざしてまいります。

最後に、本年もみなさんにとって充実した年
でありましたことを祈念しながら、新年のごあい
さつとさせていただきます。

国際医療福祉大学学長

谷修一



あけましておめでとうございます。

昨年一年間は、社会全体としては、世界同
時金融不安など大きな変動がありました。医
療福祉の世界では、以前から言われていた医
療崩壊、介護や福祉の制度改革に伴う現場の
混乱などといった波が押し寄せてきました。
本学は、こうした現場の変化の中で、どうし
たらこれまで以上に学生に良い教育ができる
か、また、現場に出た時に戸惑わない実践的
な教育をするにはどうしたらいいか、といっ
たことについて、それぞれのキャンパスが工
夫を重ねてきた一年だったと思っております。

昨年同様、以前から取り組みにより、大
学と病院・福祉施設との連携が着実に進み、
本学の特徴のひとつである、関連臨床実習施
設を学生の教育に活用していくという方向が
定着してきた年であったと思っております。

さて、二〇〇九年度は、医療福祉学部を改
組して、医療福祉・マネジメント学科を新設

します。医療と福祉を取り巻く環境が厳しく
なる一方、両者が手を結び気運が高まってい
ます。こうした社会の流れをいち早
く汲みとり、本学でも医療福祉・経
営を一体とした教育を行っていくこ
ういうものです。さらに、福岡市に
福岡看護学部を新設します。ここで
は、近隣に新設される病院を関連臨
床実習施設として活用しながら、看
護師を養成していきます。

またこの三月には、薬学部と福岡リ
ハビリテーション学部から初の卒業生
が誕生します。おかげさまで、いずれ
の学部も就職内定率は高く、昨今言わ
れているような内定取り消しといった
ことも今のところなく、依然として高
い就職率を維持しています。

高齢社会がさらに進む中、医療福祉に対す
る需要は、今後二〇年くらいは、増えること
はあっても減ることはないものと思います。
そうした中で求められているのは高い実践能
力を持った医療福祉の専門職です。こうした
社会の要請に対し、現場の期待に応えられる
人材を社会に送り出していくことが、本学に
与えられた課題であると思っております。

私がこれまでも機会あることに学生のみな
さんに言っていることは、

「この大学に入った時に自分が持っていた
期待や夢を大切に持ち続けてほしい。そして、
それを実現するために、たとえ小さなことで
も毎日続けてほしい」ということです。そして、
教職員はこれを支
援し、環境を整備していくのが役目だと思っ
ています。

みなさんにとってこの一年が充実した年
であるように願っています。

国際医療福祉大学副学長
国際医療福祉大学三田病院院長
北島 政樹



あけましておめでとございます。

私が本学副学長・三田病院院長に赴任して早くも一年半が経過しました。この間、三田病院としてふたつの特筆される出来事がありました。ひとつは、昨年四月、他の九病院とともに「東京都認定がん診療病院」に認定されたことです。現在、三田病院ではがんの特化された治療が行われておりますが、最終目的は、医師やメディカルスタッフが患者さんを中心に協力し合う「チーム医療」によって、安心・安全の医療を提供することです。もうひとつは、文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に自治医科大学とともに採択されたことです。このプロジェクトにおいて、本学はメディカルスタッフに向けてがんに関連する教育を行っています。

さらに、我々にとって喜ばしいことをお話ししますと、二〇一一年の完成に向けて新病院の

建設が始まる運びとなりました。この一年間、三田病院の多くのスタッフが新病院のプランニングに参加し、患者さんの視点からどういう病院を作ったらいかがを検討してきました。「東京都認定がん診療病院」としてこの新病院を大いに活用していこうと思っています。また、三田病院のひとつの大きな特長として、我々が目指しているチーム医療に対応して、センター体制が確立していることが挙げられます。従来、診療科ごとに分かれていたものを、センターとして集約することにより、患者さんに安心・安全の医療を提供することができます。

三つの附属病院を有し、メディカルスタッフを養成する大学として、私が目指しているのは、医師・看護師・薬剤師などが一体となって共通の教育カリキュラムを作り、メディカルスタッフを育成していくことです。大学のスタッフと病院のスタッフがプランや施設を共有しながらいい教育を行っていく、このことが大変重要であると思っています。

私個人といたしましては、今年度から国際消化器外科学会会長に就任しました。従いまして、世界の消化器外科医を集めて、特に消化器がんの低侵襲・個別化治療を実践していく、さらに若い消化器外科医を教育していくという大きな目標を立てています。

我々がめざしているメディカルスタッフの育成は、国際医療福祉大学でなければ実現できない大きなテーマです。現在、若い学生のエネルギーを結集して素晴らしいメディカルスタッフを教育していく、という信念でこの目標に向かって取り組んでいます。ぜひ、みなさんといっしょに勉強したいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

国際医療福祉大学大学院院長
開原 成允



あけましておめでとございます。

昨年は、本大学院にとって大きな意味のある一年になりました。まず、自治医科大学と共同で進めている「がんプロフェッショナル養成プラン」の初年度がスタートしました。本学は、がん治療放射線技師、がん薬物療法に精通した薬剤師、がん登録の指導ができる診療情報管理士を養成しておりますが、いずれも順調に推移しており、来年には修了生を送り出せるものと期待しています。また、二〇〇九年度の学生募集も高い人気を示しており、また多くの方が入学されると思います。このことは、自治医科大学との良い協力関係があつてのことです。その協力の一環として「臨床腫瘍学」の講義が両大学の学生に対しインターネットで受講できるようになっています。

もうひとつは、二〇〇七年にスタートした修士課程臨床心理学専攻が本年四月に完成を迎えることです。昨年、本学は第一種指定校の認定を受け、本学を修了すれば臨床心理士

の認定を受け、本学を修了すれば臨床心理士

国際医療福祉大学副学長
岩尾 總一郎



あけましておめでとございます。

私は昨年四月、副学長として赴任し、主に教育分野で学長を補佐してまいりました。大田原や他のキャンパスを見て回り、大変意義の深い一年を過ごしました。特に、大田原と小田原では、授業を通して新一年生に接し、今の若い人たちが何を考え、どのような生活をしているかということと直接自分の目で見る事ができました。夜遅くまで図書館で勉強している姿やボランティア活動、クラブ活動に参加している姿を見て大変頼もしく思いました。本学は医療福祉の様々な分野が一堂に会して勉強できる環境が整っております。私自身はこれまで医療福祉の分野に携わり、海外に出る機会も数多くありましたが、このような恵まれた環境で勉強しているところは他では見たことがありません。本学の学生のみならず、この大学で学んでいることを誇りに思っており、これからもますます勉強に励んでください。

この一年間、国際関係の仕事も見てまいりましたが、昨年は、北京パラリンピックやオーストラリア研修に学生を引率しました。特に北京パラリンピックでは、開会式や車椅子バスケットボールなどを学生といっしょに観戦しました。医療福祉を学ぶ本学の学生として、このような障害者のスポーツを見るということは大変貴重な経験になります。また、約一週間のホームステイとなるオーストラリア研修では、はじめは不安を隠せなかった学生たちが、最後の日には抱き合い泣きながら別れを惜しむ光景を見て、若い人の適応力の良さ、ホスピタリティを身近に感じる事ができました。

さて、将来に目を転じると、わが国際医療福祉大学という名前にある通り、国際という面

■ 寄稿

「ベストのものを今すぐ欲しがる国民」

国際医療福祉大学大学院副院長
金澤 一郎



方もあるでしょう。本質を突いている文章です。少し引用しながら私の意見も述べることにします。

「自動販売機、二四時間営業のコンビニ店、おしほり、良質でおいしい食べ物や飲み物の選択のすばらしさ、」などが挙げられています。便座をいつもうまく暖かくしているのはどうやら日本だけのようです。私にとって非常に印象的であったのは、彼女は自分の変貌振りを「要するに、私はベストのものを、今すぐ欲しがるようになった。(ニュージールランドに)帰ったら苦労するだろうな、と分かっている」と総括していることです。言い換えれば、「日本人はベストのものを、今すぐに欲しがると国民になっているのだぞ」と指摘したわけです。

新しい年のはじめには、いつも今年こそはと思うのですが、その年の終わりに、達成感を味わうことはなかなか難しいのが現実です。でも世の中には、年の暮れに一区切りがついた方も居られるようです。その中の一人に、ニュージールランドのドミニオン・ポスト紙の記者で、朝日新聞との交換記者として三ヶ月ほど来日して、新しい年には自国に帰った三十一歳のレベッカ・パーカーさんという方が居られます。そのパーカーさんが、離日を前に、短かつたけれども印象深い日本の生活の感想を朝日新聞の「私の視点」として残してゆきました。タイトルは「日本の暮らしたの快適さはたまらないが」です。最後に「が」が付いているのがミソです。彼女は、日本人が慣れてしまつて、何の疑問も持たなくなつてしまつて、「恐らく不必要ともいえる便利な快適さ」の持つ「危うさ」を鋭く指摘しています。でも、切れ味鋭く批判したり、皮肉を言つたりする代わりに、この三ヶ月の間に自分がどうした生活に慣れたかが告白する」という形を取つて、苦笑いすばらしいテクニクです。お読みになった

なぜ私がこのことに注目するかといいますと、「このこと」こそ、現在の日本の医療の問題を生む原点であると思うからです。「このこと」とは、すなわち「国民は皆保険制度維持のための保険料を支払っているのだから」全ての国民は我が国における最高レベルの医療を受ける権利がある。さらに、(医者や医療関係者は使命を負っているのだから、患者は)そのような最高の医療を、誰でも、いつでも、どこでも、(つまり今すぐにでも)受けられるべきである」という考え方が、国民の中に浸透しているように思えてならないのです。「温かい便座」程度のことなら良いのですが、医療となると話が違います。例えば、各町に各科のベストの専門医を集めた病院を作り、しかも救急医療まで求めたら、日本の医療は半日も持ちません。パーカーさんの「私の視点」を読んだ皆さんの中で、どの位の方々がここで私が心配しているようなところまで、考えて下さつたか知りたくないです。でも、正直知るのが恐ろしい気持ちもあります。

新春に相応しい話題ではありませんでしたが、医療を良くする皆さんの思いが少しでも実る一年であることを祈ります。



ポスター発表受賞者



口頭発表受賞者



口頭発表会の様子

卒業研究発表会 研究報告会 特集

本学では毎年、各学部で「卒業研究発表会」が行われています。これは各学科が独自に企画・運営するもので、それぞれがやり方を工夫しながら回を重ねています。

卒業後の学会や研究会でのプレゼンテーションを想定して、口頭発表やポスター発表の形をとったり、質疑応答の場を経験したりと、発表者の四年生にはさまざまな意味で有意義な経験の場になっています。さらに学科によっては、優秀な発表を表彰しています。

このうち今回は、視機能療法学科、放射線・情報科学科・薬学科の三つの「卒業研究発表会」と、さらに、大学院における「博士課程一・二年研究報告会」の様子をレポートします。

視機能療法学科

教授 小原喜隆

視覚障害の診断ならびに治療効果の判定は適した測定機器の使用による成績と正しい知識によって得られるわけです。このように眼科の治療は自らが直接に検査を行うことで病巣部位を自分の眼で確認し、治療方針を正しい方向に設定することになります。「視る」ためには全身的な反応が関係していることがありますので、視能訓練士は常に高いレベルの結果を求められているわけです。今回は九つのテーマの各々について活発な討論がなされましたが、得られた結果とそれに対する原因について時には理解しにくい解析がみられることもありました。その中、課題となった問題について提示してみます。

- 1) 多局所網膜電図(ERG)は、内蔵されているデータベースに比べてもっと積極的に実験条件を厳しくする必要がある
- 2) フレネル膜プリズムと視力との関係だけでなく、コントラスト感度特性における感度の評価を行ってはどうか
- 3) TVゲームを二時間続けて生じた目の変調、眼痛、不快感と調節との関係は?

時には厳しい結果が得られたこともあったが、各演題で討論がなされたことは一年間にわたって挑戦した研究の評価は高く、その達成感を味わったことでしょうか。時には厳しい結果が得られたこともあったが、各演題で討論がなされたことは一年間にわたって挑戦した研究の評価は高く、その達成感を味わったことでしょうか。

午前中は口頭発表、午後にはポスター発表が行われた。それぞれの発表について発表賞が設けられ、口頭発表賞は、高橋忍、下宮司、五日市拓也・東峰智史・猪瀬康弘(共同発表)の三題目に、ポスター発表賞は、佐藤春佳・原和也(共同発表)、大崎吉隆、小林博利、大貫光晴、小倉伸吾、大和田亮・工藤頌大・佐藤秋生(共同発表)、市川貴史・糸澤誠・藤元雄大(共同発表)の八題目に贈られた(敬称略)。

薬学科

助手 田島正教

九月一九日(金)、O棟一階ロビーにて薬学科四年生・教員他、他学科からも多くの方々にご参加いただき、薬学科の卒業研究発表会が開催された。

薬学科の研究分野は医薬品化学、ゲノム・分子生物学、薬理学、衛生化学、医療薬学など基礎から臨床まで広範囲に渡っている。研究方法も培養細胞や動物を使用した実験、アンケート調査・解析など様々である。学生たちは各分野の教員の指導のもと、病院や薬局での実習と並行して、約一〇ヶ月にもおよぶ研究を行

う。このような企画は現在の四年生が視能訓練士となって臨床で活躍するために価値のある学術集会でした。

小久保紫乃さん



卒業研究発表会では、十二分間という短い発表時間の中に、一年間の研究の全てを集約した。研究を開始した当初は、手探りの状態で失敗の連続であったが、結果を得るために試行錯誤したことは、研究結果以上のものを与えてくれたと思う。研究の難しさを知るとともに、常に疑問を持ち、解決策を考えることの大切さを学んだ一年間であったと思う。

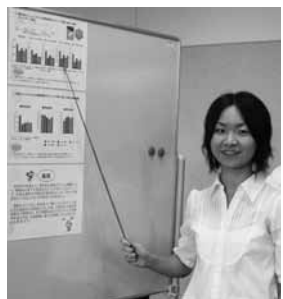
大平亮さん



ってきた。最後に、その成果をポスターにまとめ、発表をした。発表会当日は、教員が座長を務め、ポスター形式によるプレゼンテーション(発表三分・質疑応答二分)を行った。興味深い演題が多々あり、演題数は八二にも上った。会場はスーツ姿の学生・教員であふれ、活発なディスカッションの音が響き、学会会場を彷彿とさせる雰囲気であった。あまりにディスカッションが白熱し、予定が押ししまわうほどであった。多くの学生・教員が今回の発表会が有意義なものであったと感じている。

薬理学分野

齋藤淳美さん



齋藤さんは、各種生薬配合液の抗ストレス効果に関する研究を行った。研究には実験動物を用いて、行動薬理学的に薬効を評価した。研究を通して一番学んだことは「命の尊さ」だということ。今後医療人になるにあたり、常に「命の尊さ」を思い、人に対する思いやりの気持ちをもっていきたいと語っていた。

私たちの研究班は、「前庭眼反射」というテーマで、企画の段階から含め一年間を費やし研究を行った。疑問に思ったことを探求し、納得のいくまで時間をかけ、試行錯誤を繰り返せるような機会があるのは大学生の間だけなので、とても良い経験ができたと思う。

放射線・情報科学科

准教授 富沢比呂之

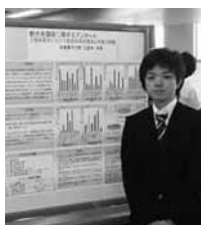
一月八日(土)、放射線・情報科学科四年生の卒業研究発表会が行われた。参加者は学生全員および教員であったが、発表会に向けての準備、会場の設営および撤収は四年生の手によって行われ、まさに手作りの発表会であった。



口頭発表会の様子

医療薬学分野

深井克則さん



深井さんは、統合失調症に関するアンケートを実施し、服薬指導の現状と今後の課題について調査研究を行った。この研究によって臨床現場での課題が明らかとなったので、それらが解決され、患者さんによりよい医療が提供されればと語っていた。また、自分もその一助を担う薬剤師になりたいと意気込みを語っていた。

平成二〇年度 大学院研究報告会 (博士課程一・二年生)

福祉援助工学分野教授 田中繁

大学院における研究報告会について大学院の研究報告会は、例年次のような時期に開催されている。

- ① 一月 修士課程一年研究報告会
- ② 二月 博士課程一・二年研究報告会
- ③ 三月 博士課程三年研究報告会
- ④ 二月 修士課程二年研究報告会

大学院は受講が大田原の本校だけでなく、①東京・青山 ②神奈川県・小田原 ③静岡県・熱海 ④福岡市・天神 ⑤福



A 系統教室の様子



B 系統教室の様子



C 系統教室における様子

岡県・大川 ⑥熊本県・熊本市の全国七箇所で開催されている。従って、発表会や報告会の際には、どのような方法で開催するのが、これまでも常々テーマとなってきた。過去には、東京に全発表者が集まるという方法も採ったことがあるが、近年、大学院生の増加により、それも不可能の感があり、講義で使用されている同時双方向遠隔授業システムを用いて複数のキャンパスを結び形で開催されている。さらに加えて、発表数の増加により一教室での発表も不可能となり、複数の教室が使われている。今回の研究報告会は、三つの教室が使われた。

今回の研究報告会について
一二月一四日(日)、開原大学院長による挨拶を含めて、九時から一六時半過ぎ

までの長丁場で開催された。今回は、博士課程一年生と二年生の合同報告会である。二年生にとっては、残りがすでに一年を切っており、指導教員以外の意見を広く聞く機会としては最後となる。また、一年生にとっては、研究計画を確定する絶好の機会となる。
全体の発表数は八八題で、一年生が五九題、二年生が二九題であった。
各教室の様子を紹介すると、
A 系統教室では、コミュニケーション・視覚関係、ガンや糖尿病などの看護、病院管理、福祉用具関係などの発表が行われた。
B 系統教室では、理学療法・作業療法関係の運動系や片麻痺に関する発表が行われた。

C 系統教室では、医療に関わる教育の関係、ケアマネージャに関する発表、自立支援に関する発表、老人ホームにおける看護に関する発表などが行われた。
それぞれの教室では、活発な議論が行われ、時間が足りなくなるような様子が多々見られた。個々の発表内容については学生によりばらつきがあり、研究が十分進捗している者がいる一方、反対に、これで大丈夫なのだろうかと心配になる者も見られた。いずれにせよ、この研究報告会を機に、皆さんの今後の一層の頑張りを期待する。

「第五回学生&企業研究発表会」開催
平成二〇年一二月六日、とちぎ産業創造プラザにおいて、「第五回学生&企業

研究発表会」が開催された。
これは、栃木県内の企業と大学との連携を促進し、大学に蓄積された学問的知識・技術・情報と企業が実践的知識・技術・情報をマッチングさせ、そこから新しい「未来の芽」を育むことを目的に、大学コンソーシアムとちぎが主催しているものです。
三つの口頭発表部門とポスターセッション部門があり、発表に立った学校は次の通りです。(発表順)

●口頭発表部門(人文・社会経済・芸術系)
足利工業大学・作新学院大学・白川大学

●口頭発表部門(理工農系)
足利工業大学・宇都宮大学・小山工業

●入賞
・宇都宮大学 平尾哲大さん「メタノールを原料とする非加熱水素製造法」
・小山工業高等専門学校 前澤格さん
・帝京大学 麻生舞さん
・鹿沼相互信用金庫理事賞賞
・国際医療福祉大学大学院 河原藍さん

●口頭発表部門(医療福祉系)
国際医療福祉大学・帝京大学
(本学発表者)
・室井里佳子さん 他八名(保健医療学部 視機能療法学科 四年)
「テレビゲームが調節力に及ぼす影響」
・水上憲昭さん 他三名(保健医療学部 理学療法学科 四年)
「冷却刺激による足底感覚鈍麻が階段昇降動作に与える影響」
・藤井西さん 他五名(保健医療学部 理学療法学科 四年)
「平地歩行、スロープおよび階段昇り動作における腰部負担の分析 ―腰部モーターメントと腰部筋活動に着目して―」
・小倉麻衣子さん 他三名(保健医療学部 言語聴覚学科 四年)
「飲水時における使用容器と頸部角度変化の関係について」
・齋藤 誠さん(保健医療学部 看護学科 四年)
「日本における高齢者と落雷災害の関連性について」
・木村有美子さん 他二名(医療福祉学部 医療経営管理学科 四年)

「個別データから見た栃木県の医療の特徴」
・國府田淳さん 他三名(保健医療学部 看護学科 四年)
「水平位での安楽な洗髪体位 ―ケリーパッドの高さと体圧の検討―」
・山司健太さん 他四名(保健医療学部 理学療法学科 四年)
「下肢に対する運動療法に関する脳活動領域分析 ―近赤外分光法(NIRS)による検討―」

ポスターセッション

足利工業大学・宇都宮大学・小山工業高等専門学校・国際医療福祉大学・帝京大学(本学発表者)
・深澤沙恵さん 他二名(保健医療学部 視機能療法学科 四年)
「中途視覚障害者の日常生活に関する視機能評価」
・河原藍さん(大学院医療福祉学研究所 保健医療学専攻 一年)
「重粒子線治療における線量分布のモンテカルロシミュレーション」

また、参考出品で参加した企業は次の通りです。(順不同)

住友金属テクノロジ(株)・(合)口モビリティ(株)・陽東・桑名商事(株)・パルスシステム(株)・トーマイダイヤ(株)・北関酒造(株)・青源味噌(株)・(株)桶山昌一商店

知事賞を受賞
口頭発表三部門からそれぞれ金賞が選

●口頭発表部門
【知事賞】
・国際医療福祉大学 水上憲昭さん 他三名(医学・医療福祉系)

【金賞】
・作新学院大学 渡辺有香さん(人文社会経済・芸術系)

【銀賞】
・作新学院大学 本平智美さん(人文社会経済・芸術系)
・小山工業高等専門学校 笠原麻奈美(理工農系)
・国際医療福祉大学 山司健太さん 他四名(医学・医療福祉系)
【社 栃木県経済同友会 ビジットとちぎ賞】
・国際医療福祉大学 木村有美子さん 他二名(医学・医療福祉系)

ポスターセッション部門

【優秀賞】



知事賞に選出された水上さんグループと指導された勝平先生(下)

言語聴覚学科「臨床実習報告会」開催

言語聴覚学科では、一二月一〇・一二日の両日にわたり、後期学外臨床実習を終了した学生による「臨床実習報告会」を開催した。前期すでに学外実習を終えている四年生と、来年度実習に出る三年生が聴衆である。三年生はこの時期、来年度の実習地の振り分けが発表され、四年生の報告の内容に自らを重ねて、臨場感を持って真剣に聞き入っている様子がかがわれた。初めて経験した学外施設における厳しく、そして充実した実習の報告に質疑応答も活発であった。



今年度は昨年度に引き続き、八月に実施された「関連職種連携実習」に参加した二名の学生により、「関連職種連携実習における言語聴覚士の役割」について発表が行われた。急性期病院から維持施設まで、実習の場はさまざまであるが、言語聴覚士の果た



（言語聴覚学科准教授 森田秋子）

医療経営管理学科「三年実習報告会」開催

十一月一日、医療経営管理学科の「三年実習報告会」が大田原キャンパスで開催されました。本学科三年生は夏休みの四週間、病院で医事業務の実習を行っており、これは現場を学ぶ貴重な体験となっています。

「三年実習報告会」はこの成果を実習病院の職員の方にフィードバックするとともに、二年生に対する情報提供を目的として毎春秋に実施しています。

当日は実習病院の職員の方をお招きし、五〇施設が各一五分の口演発表を行いました。スーツ姿で発表する三年生、熱心



す役割は失語症・構音障害・嚥下障害・認知障害に対する評価・訓練に始まり、生活の中でのコミュニケーションや活動への関与、役割や生きている領域など、実に幅広い領域に重要な役割を果たすことを報告し、実習に参加しなかった四年生や三年生に対して大いに希望を与える発表となった。

十一月一日、医療経営管理学科の「三年実習報告会」が大田原キャンパスで開催されました。本学科三年生は夏休みの四週間、病院で医事業務の実習を行っており、これは現場を学ぶ貴重な体験となっています。

視機能療法学科「視覚障害者のための正しいガイドヘルプの方法」研修会開催

視機能療法学科では、一二月二二日、講師に国立障害者リハビリテーションセンター病院第三機能回復訓練部所属の生活訓練専門職である中西勉先生をお招き

「第12回学長杯英語スピーチコンテスト」開催

一二月一〇日、大田原キャンパスにおいて、「第12回学長杯スピーチコンテスト」が開催された。今年度は「hope for tomorrow」をテーマに、スピーチ部門・暗誦部門の各四名が出場し、英語での表現力を競い合った。



スピーチ部門では、北上守俊さん（言語聴覚学科二年）が昨年に引き続き二度目の挑戦で優勝の



北上守俊さん

座をつかんだ。夏のベトナムのチョウライ病院を訪問した時の体験と彼自身の将来の夢を見事な表現力と英語で披露した。



大蔵拓也さん

暗誦部門では、大蔵拓也さん（医療福祉学科二年）が優勝。浦島太郎の話を持ち振手振りを交えながら表現力豊かに語り、聴衆を魅了した。準優勝は、大串ことみさん（言語聴覚学科二年）で、ベートーベンが友人や弟に宛てた手紙を暗誦し、彼の不遇かつ才能豊かな人生を見事な英語力で表現した。

谷学長が、英語での総評の中でも触れられたが、参加者が昨年より多少なかつたことは唯一残念な点であった。しかしながら、全ての参加者が連日の練習の結果を発揮し、個性豊かにスピーチ、または暗誦を表現できた素晴らしいコンテストとなった。

「動物慰霊祭」開催

（総合教育センター語学教育部）

一二月二二日（金）午後六時、大田原キャンパスF101教室にて動物慰霊祭が開催された。本慰霊祭は、動物実験に携わる関係者各位がここに集い、本学において教育、研究のため尊い犠牲となつた実験動物を供養するために毎年行われている行事であり、今年度は学生及び教



職員約四二〇名が列席した。今回の慰霊祭では、動物実験委員会の小島莊明委員長の挨拶から始まり、鈴木義之教授の講話、教員及び学生代表による献花が行われた。中でも鈴木教授の講話は動物慰霊祭の必要性を学生に伝える内容であり、「今日の医学の発展には動物実験が必要不可欠であり、動物実験があるからこそ治療技術や新薬が開発され、人類の健康や福祉に大きく貢献してきたのである。」と述べられ、学生は真剣に耳を傾けていた。

本学の学生は、「生命倫理」を学び、動物実験に取り組んでいく。大田原キャンパスには基礎医学研究施設があり、研究や実験に動物が欠かせない。常に動物へ愛着や感謝の気持ちを持ちながら授業を受ける事が動物たちの供養にもつながり、この動物慰霊祭に多数の学生が出席する事は、「生命倫理」の理解を深めると共に、今後の医療福祉分野を背負っていく学生にとって、生命の大切さを理解してもらおうための良い機会となっている。これらの実験動物の尊い犠牲が、本学で学ぶ学生の医療分野の知識を養うために重要な役割を担っていると再認識できる行事であった。（管理課 小川貴宏）



して、「視覚障害者のための正しいガイドヘルプの方法」と題した研修会を実施した。当日は、教員をはじめ、なす療育園や国際医療福祉大学病院などから二名の参加者があった。参加者は、視力障害や視野狭窄などのシミュレーションゴーグルを装着して、歩行時、また階段や狭い場所でのように安全にガイドをすればよいのかについて、臨床に即した実践的な方法を学習した。

研修後に行ったアンケート調査では、「非常に役に立った」「三名、「役に立った」八名となり、大変有意義な研修であったことが伺われる。さらに、「このような研修があったらまた参加したいかどうか」という質問には、二〇名の参加者がイエスと回答され、次年度の研修実施に向けて心強い応援をいただいた。

看護学科「助産師教育」のあゆみ ―最後の助産師教育に携わって―



曾我部准教授（中央・ブルーのユニフォーム）と6名の学生たち

療センター
産期母子医
習、総合周
I C U 実
子のかかわ
り学ぶN
産所）、ハ
イリスク母
習（毛利用
産所）のハ
習（毛利用
産所）のハ

平成一〇年に始まった本学の助産師教育は、合計九六名の学生が学び、本年度で終了します。開校当時の三年間は履修生が一〇名以上いましたが、その後は平均六名が履修しています。助産師教育で重要な位置を占めるのが、指定規則にある正期産、経膈分娩を指導者のもとで、一〇例程度の分娩介助をする臨地実習です。実習期間内に終了できる分娩件数、二四時間可能な指導体制、宿泊場所などが必要となるため、助産実習内容を理解し協力していただける施設の確保が大きな課題となります。幸い、実習施設に関しては、これまで就任された先生方のご努力と、施設のご協力により、充実した環境での実習ができています。

私は平成一七年に就任し、大学における助産師教育に関わる機会を与えられました。ここ数年間は、二倍の応募者から選抜された六名の学生が履修しています。

前期は講義中心で行い、八月から助産管理と実際の助産師活動を学ぶ助産所実習（毛利用産所）、ハイリスク母子のかかわり学ぶNICU実習、総合周産期母子医療センター

医科大学病院）、地域の助産師活動を学ぶ助産施設（ままと赤ちゃんの家）の見学実習（一単位）を行います。九月からは二施設の診療所における七単位の分娩介助実習（県内の大草レディースクリニック、福島県のセイントクリニック）が二グループに分け十四週間あります。両施設は、受持ちケースの選択と同意への配慮、学生と一緒に関わる指導助産師の協力により実習体制も整っています。教員としては、受持ちケースが出産になる時には緊張が続くため、学生が安定した状態で産婦と家族の前に立てるように関わっています。また、指導助産師とともに、安全、安楽のための援助が判断でき、満足できる出産への支援のための段階的な学びの確認をしています。助産実習では夜間の出産介助があるため、二四時間体制での支援、学生のストレスなど精神的フォローを含めた健康管理、実習施設への移動時の交通安全への配慮も欠かせません。

学生からは助産師教育での学びとして、実習場で学んだことが原点となること、産婦様や指導助産師の励ましや助言に感謝する自己成長した自分の姿、体験からつかんだ助産師の心、有意義で楽しい実習だったとの声が聞かれています。

本学の助産師教育は、今後、大学院助産学分野に引き継がれます。最後の学生も、四年間で保健師助産師看護師の免許を取得できた喜びと誇りを持って、目標に向かって末永く社会で活躍してほしいと願っています。

（看護学科准教授 曾我部美恵子）

「在学生保護者懇談会」開催

「在学生保護者懇談会」が以下の日程で開催された。

- 茨城地区 一月一日（土）、（水戸三の丸ホテル）
- 福島地区 一月八日（土）、（郡山ビューホテルアネックス）
- 東北地区 一月二十九日（土）、（仙台サンプラザ）

茨城地区

一一五名、

福島地区一

〇二名、東

北地区六七

名の参加を

いただき、

谷学長や岩

尾副学長の

挨拶、近藤

福次教育後

援会会長の

挨拶、さら

には、大学

教職員

紹介、大学

現況説明、

最後に学

科別懇談、

個別相談な

ど、終始、

保護者と

教職員な

どとの活

発な情報

交換が行



各学科に共通するテーマとしては、国家試験対策と指導、実習施設や実習班の決定方法、就職活動の開始時期、求人数や求人状況などが挙げられる。保護者からの質問と要望もまとめられ、複数の学科に「来年度以降も継続して開催してほしい」という声が寄せられている。

（学生課）

広報誌 IUHW 76号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原本校〕広報委員会

栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

〔小田原キャンパス〕

神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔天神キャンパス〕

福岡県福岡市中央区長浜1-3-1 ☎092-739-4321

〔大川キャンパス〕

福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

〔東京事務所〕広報室

東京都港区南青山1-24-1 ☎03-5775-2505

デザイン：iDept. 写真：大田原キャンパス 写真部ほか

編集：東京事務所 広報室

©国際医療福祉大学 2009 Printed in Japan 禁無断転載・複写

お知らせ

IUHW Hot News

学位記授与式、入学式のご案内

平成20年度 学部学位記授与式ならびに大学院学位記授与式の日程

■大田原キャンパス

日 時：平成21年3月17日(火) 10:20～

会 場：那須アスリーナ1階

■大川キャンパス

日 時：平成21年3月14日(土) 11:00～

会 場：講堂

平成21年度 学部入学式ならびに大学院入学式の日程

■大田原キャンパス

日 時：平成21年4月4日(土) 10:20～

会 場：那須アスリーナ1階

■小田原キャンパス

日 時：平成21年4月3日(金) 10:30～（予定）

会 場：6F体育館

■大川キャンパス

日 時：平成21年4月6日(月) 14:00～

会 場：講堂